

### Introduction of Staff

スタッフ紹介



管理事務 林 親男

当クリニックにお世話になり5年目に突入しました。

「管理事務」という聞きなれない職場ですが、医療行為以外はすべての仕事を行う職場です。あらゆる「管理」の鬼となり患者様に気持ちよく帰っていただける、スタッフが行動しやすいようにどんどん段取りをしていく、そんな職場にしたいと日々、悪戦苦闘しています。縁の下の力持ちでがんばりますので、よろしくお祈りします。



## 健康便り

# 新年

## 明けまして

## おめでとうございます

お知らせ

**人間ドック・脳ドック・大腸ドック・肺ドック 随時受付中！  
詳しくはスタッフまでお気軽にご相談ください。**



## 院長の巻頭言

**頌** 春、あけましておめでとうございます。本年もまるやまファミリークリニックをよろしくお祈りします。

嫌な12月も終わり、いよいよ新たな年に入りました。昨年末体調を崩してしまい、闘病しながら診療していました。患者様から励まされることもありましたが、何とか体調を立て直すことができました。医者の不養生といってしまうほどですが、自分のことを放っておいても仕事、患者さんをみることに専念してきた結果であります。身を犠牲にして仕事を続けた結果です。医者が病気になる自分を診てくれる医者が周りにいないことが非常に孤独に思いました。結局自分で自分の病気を診断し、自分で治すしかなかった。

ところで、当クリニックは今年で10年になります。自分ながらよく頑張っただけでここまでやってこれたものだと思います。10年を振り返るのは別の機会にお話しするとして、2016年はどのような年になるのでしょうか。2016年は申年。申は猿とは書かない。そこに何か理由があるのでしょうか。「申」は、干支の十二支の9番目ですが、その意味は「伸ばす」で、「草木が十分に伸びきった時期で、実が成熟して香りと味がそなわり固く殻におおわれていく時期」をいいます。ちなみに、干支の十二支の1番目の「子（ね）」は、「増える」でこれから子孫を増やそうとするタネ（種子）の時期を表し、干支の十二支の最後の12番目の「亥（い）」は「とぎす」という意味で、新たな生命「子」が宿り、エネルギーが閉じ込められ収穫されている時期です。そして、実は、干支の十二支の「申」の本当の読みは「しん」と読みます。「申」は「さる」ではなく、本当は「しん」と読みます。その「申」という漢字は、「雷」の原字で、元々「稲妻（いなずま）」を表した象形文字になります。また、稲妻（いなずま）は、屈折しながら、あちこちの方向に走ることから、「申」を「のびる」という意味や「もうす」という意味で使うようになりました。ちなみに、雷

は昔、神が鳴らすものとされ、「神鳴り」とも書かれ、かみなりの語源になりました。「申」の字に示偏（しめすへん）をつけると「神」になります。「申」と「猿」はまったく関係はなく、現在申を猿と読むのは、有力な説として、干支の十二支を広く庶民にも理解してもらい、昔当時は字を読めない人も多かったため、わかりやすく憶えやすくするために、動物の猿を割りあてたといわれています。

2016年の干支は丙申（ひのえさる）の意味は、申は「呻く（うめく）」という意味もあります。これも語源は樹木の成長に例えられる。申の呻くは実が成熟して行って、固まって行く状態を表しています。つまり完熟までは達しない状態です。「形が明らかになってくる」、「実が固まっていく」とはどういうことでしょうか。その答えは歴史が教えてくれると思います。そのキーワードは「形が明らかになってくる」「実が固まっていく」。丙申の文字の意味がヒントですね。これまで日の目を見なかったことが形となって現れて来る年だと言えるのではないのでしょうか。2016年は何かを始めるというよりも、これまでの頑張りが形になっていく、つまり評価されてこなかったことが評価されるようになったり、これまで気づけなかったことに気づくようになったりする年になります。2016年は、頑張ってきた人の努力が形になっていく年とまとめたいと思います。当クリニックに当てはめれば、開業10年目にして、患者様から改めて評価される年になると思います。今年も一生懸命患者様のために頑張ります。



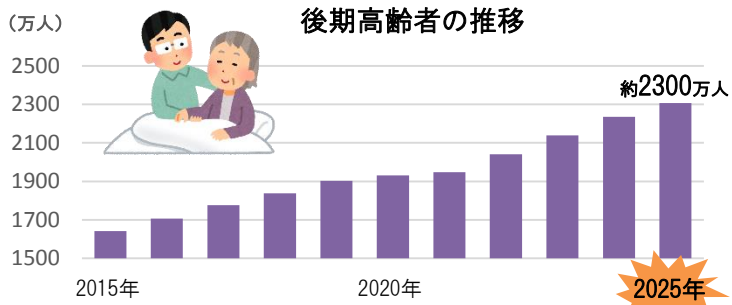
まるやまファミリークリニック院長  
医学博士 丸山 哲弘



## 2025年問題とは？

**団**塊の世代が2025年頃までに75歳以上（後期高齢者）に達する事による介護・医療費等社会保障費の急増が懸念されており、「2025年問題」と呼ばれています。

平成27年（2015年）に「ベビーブーム世代」が前期高齢者（65～74歳）に到達し、下のグラフの通り10年後の平成37年（2025年）後期高齢者人口は、約2,300万人（人口比約20%）に達すると推計されています。

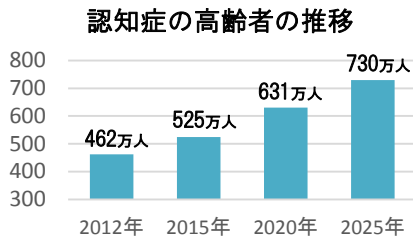


## 生涯医療費の約半分は70歳以上から！

**ひ**とりの人が生まれてから亡くなるまでにかかる医療費を「生涯医療費」と呼びますが、日本人の生涯医療費の平均は2,500万円（男性2,400万円、女性2,600万円）となっています。特に70歳以上が大きく、生涯の医療費の約半分はこの時期に占めているという計算です。

## 高齢者の5人に1人が認知症に？

**直**近の厚労省の調査によると、認知症高齢者数は、以前の予想を上回るスピードで増加しており500万人を超えているとのことです。2012年の調査では462万人でしたので、この推移で行きますと2020年には630万人、2025年には730万人になることが予想されます。



## 認知症治療のポイントは早期発見

**認**知症を完全に治すことは難しいですが、適切な治療によって、症状の進行を遅らせることができます。

### 治療開始時期により、効果に大きな差が！

認知症は、早めに治療を開始する場合ほど、症状の進行を遅らせることができます。治療の開始が遅れても、何も治療しない場合と比べたら治療効果がみられますが、早めに治療を開始したときほどの治療効果は期待できません。

## 認知症ドックのご案内

### 早期認知機能障害(MCI)や認知症を簡易検査で早期発見

**認**知症ドックは早期認知機能障害(MCI)の発見や、認知症になりやすいリスクが高い方を発掘し、認知症の予防に今から何をすべきかを指導することを目的としています。

認知症リスクは採血により3つの項目（補体、トランスサイレチン、ApoE蛋白）により解析されます。



### 認知症ドックの検査項目

- ① MCIスクリーニング検査
- ② MMSE(ミニメンタルステート検査)
- ③ 簡易認知機能確認スケール(コンピューター検査)
- ④ 脳MRI検査(海馬撮影・フレア撮影)
- ⑤ 一般採血 (FBS,HbA1c,総コレステロール,LDL-C,HDL-C,TG)
- ⑥ ApoE遺伝子検査 ※オプション検査 別途15,000円(税込)



検査料金：45,000円(税込)

## 早期認知機能障害(MCI)とは？

MCI(Mild Cognitive Impairment)は認知症ではありませんが、完全な健康状態ではなく、認知症になる前の段階です。

治療をしないで生活を続けると、症状が進行して認知症になりますが、MCIの方は、認知症の症状が出ていることに気づかないことも多いのが現状です。そのため数年間で、約半数の人が認知症になるといわれています。

### MCIは簡易検査で調べられます！

MCIスクリーニング検査は、1回10cc程度の採血による簡単な検査です。血液内の神経細胞に障害を与える、アミロイドベータペプチド関連のタンパク質を調べることで、症状が出るよりも早い段階でMCIの可能性を判定することができます。

## 当院の設備紹介

### 一酸化窒素ガス分析装置



### 喘息における好酸球性気道炎症の有無を調べる

**空**気の通り道である気道に慢性的な炎症を持つ患者さんでは、吐く息の中（呼気中）の一酸化窒素（NO）の濃度が高いことが分かっています。気管性喘息では気道に慢性的な炎症があるため呼気NO濃度が高くなっていますので、咳・痰などの症状のある方の呼気を調べることで、その咳・痰が気管支喘息によるものかどうか判定できます。呼気NOは気管支喘息の診断やコントロール状態の評価、またこれまで難しいとされていた「咳喘息」の診断や、他の慢性的な咳との鑑別に有効です。